研　修　参　加　報　告　書

令和　７年　２月　３日

会　派　名　江政クラブ
会派代表者　長尾　光春

（参加者：　長尾光春、中野裕二）
研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	令和６年１０月　９日（水）～１０日（木）
研修時間	１０月　９日　１３：００～１６：３０ １０日　９：００～１１：００
研修場所	トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）
研修内容	第１９回　全国市議会議長会研究フォーラム　ｉｎ　盛岡 「主権者教育の新たな展開」 ・ビデオメッセージ 第 99 代内閣総理大臣　菅　義偉　氏 ・パネルディスカッション 「コーディネーター」 静岡大学　人文社会科学部法学科　教授　井柳　美紀　氏 「パネリスト」 法政大学　法学部　教授　土山　希美枝　氏 一般社団法人 WONDER EDUCATION　代表理事　越智　大貴　氏 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局　渡辺　嘉久　氏 盛岡市議会　議長　遠藤　政幸　氏 ・課題討議 「コーディネーター」 東北大学　大学院情報科学研究科　准教授　河村　和徳　氏 「事例報告者」 伊那市議会　前議長　白鳥　敏明　氏 四日市市議会　第 83 代議長　諸岡　覚　氏 山鹿市議会　議長　服部　香代　氏

研　修　参　加　報　告　書

年 月 日	令和６年１０月　９日（水）～１０日（木）
研修時間	１０月　９日　１３：００～１６：３０ １０日　９：００～１１：００
研修場所	トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）
研修内容	第１９回　全国市議会議長会研究フォーラム　ｉｎ　盛岡 「主権者教育の新たな展開」 ・ビデオメッセージ 第 99 代内閣総理大臣　菅　義偉　氏 ・パネルディスカッション 「コーディネーター」 静岡大学　人文社会科学部法学科　教授　井柳　美紀　氏 「パネリスト」 法政大学　法学部　教授　土山　希美枝　氏 一般社団法人 WONDER EDUCATION　代表理事　越智　大貴　氏 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局　渡辺　嘉久　氏 盛岡市議会　議長　遠藤　政幸　氏 ・課題討議 「コーディネーター」 東北大学　大学院情報科学研究科　准教授　河村　和徳　氏 「事例報告者」 伊那市議会　前議長　白鳥　敏明　氏 四日市市議会　第 83 代議長　諸岡　覚　氏 山鹿市議会　議長　服部　香代　氏

■目的

全国市議会議長会研究フォーラムでは、全国の市区議会議員が一同に会し共通する政策課題等について情報交換を行うとともに、議員同士の一層の連携を深めることを目的としている。

地方議会の課題の一つとして、投票率の低下や無投票当選の増加など議会への関心の低下や議員のなり手不足の深刻化があり、女性や若者など多様な人材の議会への参画を一層進めていくことが必要である。そのためには各地方議会が自ら積極的に更なる改革に努め議会の活性化を図り、議会の重要な役割について、広く住民に理解が得られるよう取り組まなければならず、将来の地方自治を担う子どもたちに

対する主権者教育の取組が重要である。
　そこで今回は、「主権者教育の新たな展開」をテーマとし各地方議会の主権者教育に係る事例を検証するなど、改めて地方議会の課題を整理した上で、その解決に向けた今後の方向性を展望する。

■内容
１日目
（講義内容）
・ビデオメッセージ
「人口減少社会における地域の未来図」
第 99 代内閣総理大臣　　菅　　義偉　氏
・パネルディスカッション
「地方議会の課題と主権者教育」
「コーディネーター」
静岡大学　人文社会科学部法学科　　教授　　井柳　　美紀　氏
「パネリスト」
法政大学　法学部　　教授　　土山　希美枝　氏
一般社団法人 WONDER EDUCATION　　代表理事　越智　　大貴　氏
読売新聞東京本社教育ネットワーク　　事務局　渡辺　　嘉久　氏
盛岡市議会　　議長　　遠藤　　政幸　氏

■最初にコーディネーターの井柳氏から、「主権者教育の新たな展開」として、地方自治法改正も踏まえつつ、投票率の低下、無投票当選の増加、議員の性別や年齢構成の偏りなどの地方議会の課題に対し、議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進することが必要であり、出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に主権者教育に取り組む事例が広がっているとの話がありました。また、これまでの教育基本法の「政治的教育」について昭和 44 年の通知で「教師の個人的な見解や主義主張が入り込む恐れがあるので慎重に取り扱うこと」としていたものが、平成 27 年の通知では「現実の具体的な政治的事業も取り扱い、生徒が国民投票の投票権や選挙権を有するものとして自らの判断で権利を行使することができるよう、具体的かつ実践的な指導を行うことが重要」と変化してきたことが紹介され、今、主権者教育の新たな展開が必要な時期となっているとの問題提起がありました。
　土山氏からは「誰がための主権者教育か」として、主権者教育の主体は学校、教育委員会であり、議会はその主体や学生とどう連携するかが求められていることから、「議会」が「主権者教育」を行っていると称するのはやめませんかとの話がありました。また、各地で取り組まれている「高校生議会」での議員との直接の語らいは学生の刺激となることは認めつつも、「高校生に作文（高校生議会の感想）を朗読してもらい、大人の側からのコメントで締めくくる」のでは、「教え育てる」ことにはならず、学校側の「議会」を使った教育プログラムの存在、議会側は高校

生を若き市民（有権者）として受け止め、その声をどう政策に活かすかなど、関係者の真摯な取組が欠かせないとの話がありました。

越智氏からは、「若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性」として、「WECITY（キッザニア風こどもによるまちの運営）」「こどもワークショップ（社会の課題について意見交換するワークショップ、行政にも提案）」「こども議会（議員との交流会）」など 13 年間の主権者教育の取組が紹介されました。その中で見えてきたこととして、「若者は政治や社会に関心が無いわけではなく、参加しても意味が無いと思っている。意見を聞いてもらえる、反映してもらえると感じられる機会を増やす必要がある」「学校現場における主権者教育において、政治的中立への過度な配慮があるので、議会は学校でもリアルな政治を扱いやすいように超党派で対応チームをつくるなど、役割を果たせる」「政治家との交流は、こども達の政治意識の醸成に大きく影響する」などのメリットの説明がありました。

渡辺氏からは、取材経験の中で、高校生から聞いた話として「政治のことを知らないので、間違ってはいけないから、投票に行けない」との声があったと紹介がありました。政治については正解は一つと限らないから、「自分の希望する未来を考えてくれる人を選んではどうかと話した」ことに加え、若者に「政治とつながる」ということについて「政治」は「未来」、「政治とつながる」＝「未来とつながる」、「政治を考える」＝「未来を考える」と、いうことであり、結果として、「自分の未来を創造する」ことにつながっていくことになると伝えていくことが大切であるとの話がありました。

遠藤氏からは「盛岡市議会の取組」として、同議会で平成 29 年 7 月に初めて高校生議会を開催して以降、令和 4 年までで計 4 回開催した実績紹介のほか、盛岡地域の大学に議員が出かけて学生と意見交換を行う「もりおか mirai おでかけミーティング」を平成 30 年、令和 4 年と開催したことの紹介がありました。高校生議会に参加した高校生からは「市政に関心を持った」「議会の役割が理解できた」などの感想が寄せられたとの成果についても話がありました。

２日目

（講義内容）

・課題討議

「主権者教育の取組報告」

「コーディネーター」

東北大学　大学院情報科学研究科	准教授	河村　和徳	氏

「事例報告者」

伊那市議会	前議長	白鳥　敏明	氏
四日市市議会	第 83 代議長	諸岡　覚	氏
山鹿市議会	議長	服部　香代	氏

■最初にコーディネーターの河村氏から、主権者教育に対する理想と現実の指摘がありました。理想は①主権者教育は、基本的にシチズンシップ教育であるべき、②地域社会の社会的課題を自ら認識し、経験を含めた形で社会を改善していく力を養

う方向にもっていくべき、③社会には多様な意見があり、多様な意見があることを理解する（ディベート）であることに対し、現実は①知識の享受（制度の理解）が中心、正解を教えようとする、②投票者重視（模擬投票）の教育、③実施主体（教育委員会、選挙管理委員会等）の連携の不十分さ、などの問題を抱えているとの話がありました。また、選挙権年齢を 18 歳に引き下げたことで新たに発生した問題点の提示や選挙と選挙後の連続性を有権者に理解させることの重要性、現在の主権者教育で感じる限界についての問題点の提示とともに有権者が政治に参加する方法は、選挙だけでなく、日常の活動の中にも多くの方法があることを有権者に理解させていくとともに有権者が政治に近づくためのアプローチや、議会から有権者に近づくアプローチの機会を今後多くする取組が必要であるとの話がありました。これらの現状を背景に、各市議会の取組事例の紹介がされました。

〇伊那市議会「高校生の議会傍聴と意見交換会の取組」

白鳥氏からは、同市において平成 30 年の市議会議員選挙が無投票となったことにより、議員のなり手不足に危機感を抱き、問題を放置せず同年 6 月には全議員参加の「魅力ある議会づくり検討会」を設置し、若い世代の議会への関心を高めるために、特に高校生を対象に議会傍聴、意見交換等の企画を決定したとの話がありました。傍聴は定例会一般質問、その後（日、場所は定例会と異なる場合もあり）、生徒 3、4 人と議員 3、4 人の小グループに分かれた意見交換が行われたとのことでした。参加した議員の感想は「高校生の真剣に取り組む姿に感動した」「声を直接聞ける良い機会。今後も積極的に行っていきたい」、高校生の感想は「話しているうちに自分の意見を言うことができ、市のことをよく知ることができた」「議員さんに親身に話を聞いてもらえ、アドバイスももらえた」「将来、政治家になりたいと思った」など、双方とも肯定的なものです。また、意見交換をきっかけに高校生から請願書や要望が議会に提出され、全会一致で採択されるなど市政への参加意識が高まったとの話や、今後は中学生キャリアフェスにも参加し、地域の企業や団体を知り将来の進路について考える学びの場に議会や議員の取組を知る機会を作っていくことの紹介もありました。

〇四日市市議会「ワイ！ワイ！ＧＩＫＡＩ」

諸岡氏からは、（ワイ＝Ｙ／Ｙｏｋｋａｉｃｈｉ：四日市　／Ｙｏｕｔｈ：若者の２つのＹ）として行っている出前型意見交換会について、以前から議会として市民向けに開かれていた「シティーミーティング」の見直しを提案し、令和４年から「ワイ！ワイ！ＧＩＫＡＩ」として新たな取組を始めたことの紹介がありました。各常任委員会が地域の中学校・高校・大学に出向いてテーマをもとに意見交換を行うというもので、将来的には各種業界団体、各種労働組合など幅広い対象との交流を目指したいとの話がありました。また、同市では高校生議会も開催しており、開催方法はテーマごとに委員会に分かれ、意見交換を行い、本会議場で意見書の採択を行うというもので、その様子をよっかいち市議会だより#こども号として市民に広く周知する活動につなげているとの話もありました。

〇山鹿市議会「山鹿市議会が取り組んだシチズンシップ教室」

服部氏からは、同市議会の課題として「開かれた議会になっていない」「住民の理解と関心が得られていない」「議員のなり手不足」があり、議員のスキルアップが必要であるとして、議会として小学校でのシチズンシップ教室を開催していることの紹介がありました。伝える内容は①市議会について知る、②議員の仕事を理解する、③選挙の意義や、投票の大切さがわかるの３点で、実施にあたっては教育委員会、学校、選挙管理委員会などと協議し、協力を取り付けるところからはじまったものであり、教材として使う絵本「ポリポリ村のみんしゅしゅぎ」の読み聞かせボランティアとして市民の参加も得て開催されていることの紹介がありました。子どもたちからは「議員の仕事がわかった」「投票には興味がなかったけど、投票の大切さを知った」「議員の仕事をしてみたいと思った」など、議会への理解が進んだとの反応があり、議員の側も職責の重さを再確認したようです。参加した市民ボランティアからは「議員の努力が見えた」「自分たちも選挙の意義や議員の仕事が理解できた」との反応があり、子ども以外にも波及効果が大きかったとの成果報告もありました。

■所感

今回参加したフォーラムでは、主権者教育の重要性やその取組事例の紹介がされ、大変参考になったが、主権者教育についてはどれが正しいやり方であるかは、それぞれの議会やそれぞれの有権者のおかれている立場によっても異なっており、まだまだ試行錯誤しながら実験的に進められている状況であると考えられます。

江南市においても、議会改革特別委員会の取組として、市民と議会との意見交換会を年 2 回以上開催しており、直近 3 年間においては、中学生との意見交換会を実施しており、参加した生徒からは「とても有意義であった」「議員の仕事がよくわかった」「将来、議員になりたい」などの好感触の感想が多く寄せられており、実施した成果は大きいと感じている。

今回、学んだ他市町の取組事例で有効である取組を当市の取組に組み込み、さらなるブラッシュアップを図り、今後の議会から有権者に向けた主権者教育の取組を推進していくことが重要であることを理解しました。